

◇おんどくだい◇ 一枚め①

いるか

谷川 たにかわ

俊太郎 しゅんたろう

いるか いるか

いないか いるか

いない いない いるか

いつなら いるか

よるなら いるか

またきて みるか

いるか いないか

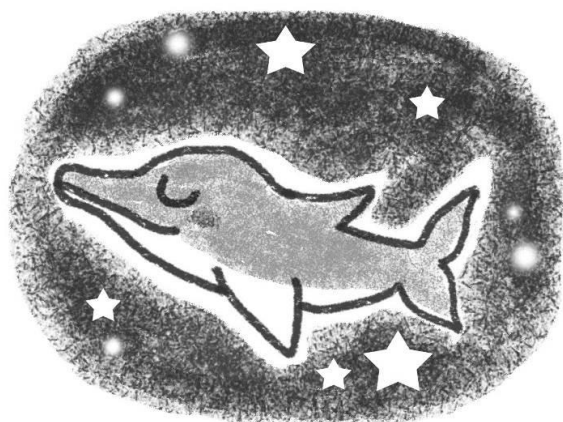
いないか いるか

いる いる いるか

いっぱい いるか

ねて いる いるか

ゆめ みて いるか



*おんどく 10回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくぐたいく◇ 一枚め②

わたしと小鳥とすずと こじう 金子みすず かねこ

わたしが両手をひろげても、

お空はちっともとべないが、

とべる小鳥はわたしのよう、

地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、

きれいな音はでないけど、

あの鳴るすずはわたしのよう、

たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんながって、みんないい。

*金子みすずさんの詩集は、図書館にもあります。読んでみてください。

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだいく◇ 一枚め③

夕焼け小焼け

ゆうや

こや

中村

なかむら

雨紅

うこう

夕焼け小焼けで 日がくれて

ゆうや

こや

ひ

山のお寺の 鐘がなる

やま

てら

かね

お手々つないで みなかえろ

てて

からすといっしょにかえりましょう

子どもが かえった あとからは

こ

まあるい 大きな お月さま

おお

つき

小鳥が 夢を 見るころは

ことり

ゆめ

み

空には きらきら 金の星

そら

きん

ほし

*この詩を書いた中村雨紅さんは、

はちおうじし おんがた う
八王子市の恩方で生まれました。

(下の写真が中村雨紅さんです。)



*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 二枚め①

へいけものがたり

ぼうとう

さいしよ

ぶぶん

平家物語

(冒頭・最初の部分)

ぎおんしやうじゃ

かね

こえ

祇園精舎の鐘の声、

しやうみやうはじやう

ひび

諸行無常の響きあり。

さうそつじゆ

はな

いろ

沙羅双樹の花の色、

じやうじやひつすい

ことわり

盛者必衰の理をあらはす。

おごれる人

ひつ

ひや

おごれる人も久しからず、

ただ春

はる

よ

ゆめ

ただ春の夜の夢のいとし。

たけき者

もの

たけき者も ついにはほろびぬ、

ひとへに風

かぜ

まえ

ちり

おな

ひとへに風の前の塵に同じ。

◇おんどくだいく◇ 二枚め②

いろいろな人の短歌
ひと たんか

大海の磯もとどろに寄する波
おおみ いそ よ なみ
わ くだ さ ち
破れて砕けて裂けて散るかも

源 実朝
みなもの さねとも

願わくは花の下にて春死なむ
ねが はな した はるし なん
きせうききもちづき
その如月の望月のころ

西行
さいぎよう

見渡せば花も紅葉もなかりけり
みわた はな もみじ
うら とまや あき ゆうぐれ
浦の苫屋の秋の夕暮

藤原 定家
ふじわらの ていか

世の中にたえて桜のなかりせば
よ なか やぐら
はる こころ
春の心はのどけからまし

在原 業平
ありわらの なりひら

ひさかたの 光のどけき 春の日に
しつじよう ひかり はる ひ
しづ ちるらん
静心なく 花の散るらむ

紀 友則
きの ともり

金色の ちひさき鳥のかたちして
こんじき ちひさきとり
いちよう
銀杏ちるなり 夕日の丘に

与謝野 晶子
よさの あきこ

◇おんどくだいく◇ 二枚め③

いろいろな人の俳句 ひと はいく 【季語がないものもあります。】

秋の江に あき え 打ち込む杭の う こ くい 響きかな ひび 夏目 なつめ 漱石 そうせき

いくたびも ゆき ふか 雪の深さを たず 尋ねけり まさおか 正岡 しき 子規

木枯らしや こ が めざしに残る のこ 海の色 うみ いろ 芥川龍之介 あくたがわりゆうのすけ

夏草や なつくさ 兵どもが つわもの 夢の跡 ゆめ あと 松尾 まつお 芭蕉 ばしろう

荒海や あらうみ 佐渡に横たふ さど よこたう 天の川 あま がわ 松尾 まつお 芭蕉 ばしろう

菜の花や な はな 月は東に日は西に つき ひがし ひ にし 与謝 よさ 蕪村 ぶそん

菜の花や な はな 鯨もよらず くじら 海暮ぬ うみくれ 与謝 よさ 蕪村 ぶそん

戦争が せんそう 廊下の奥に ろうか おく 立っていた た 渡辺 わたなべ 白泉 はくせん

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだいぐ◇ 三枚め①

だいくしょうがっこう

第九小学校の「あいづえお」

「あ」は、あいさつとありがとうの「あ」。

毎朝まいあさ「おはよう」。 毎日まいにち「ありがとう」。

「い」は、いれての「い」。

「いれて」と言いわれたら、かならず、なかま。

「う」は、歌声うたごえの、「う」。

歌声うたごえいっぱいがっきゅうの学級がっきゅうに。 歌声うたごえいっぱいがっこうの学校がっこうに。

「え」は、絵えが好すきの「え」。

第九小だいくしょうをみんなびじゅうかんで美術館びじゅうかんにする。

「お」は、おんどくの「お」

毎日まいにち、音読おんよみ。 どんどんおぼえちゃえ。



*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 三枚め②

はやくちいしば

河童^{かっぱ}かっぱらった。河童^{かっぱ}ラッパかっぱらった。

トッテチッテター♪

河童^{かっぱ} 菜^なっ葉^ば 買^かった。河童^{かっぱ} 菜^なっ葉^ば いっば買^かった。
買^かって 切^きって 食^くった。

青^{あお}巻^{まき}紙^{がみ} 赤^{あか}巻^{まき}紙^{がみ} 黄^{きま}巻^{まき}紙^{がみ}。

隣^{となり}の客^{きやく}は、よく柿^{かき}食^くう客^{きやく}だ。



かえるぴよ^みいびよ^むい 三^みびよ^むいびよ^むい、
あわせてぴよ^むいびよ^むい 六^むびよ^むいびよ^むい。

東京^{とうきょう}特^{とく}許^{きょ}許^{きょ}可^か局^{きょく}、許^{きょ}可^か局^{きょく}長^{ちやう}。

桜^{さくら}咲^さく桜^{さくら}の山^{やま}の桜^{さくら}花^{はな} 咲^さく桜^{さくら}あ^ちり散^{さん}る桜^{さくら}あ^ちり。

◇おんどくだいく◇ 三枚め③

ひとつのじとば きたはら 北原 はくしめう 白秋

ひとつのじとばで けんかして

ひとつのじとばで なかなおり

ひとつのじとばで あたま 頭が下がり さ

ひとつのじとばで こころ 心が痛む いた

ひとつのじとばで たの 楽しく笑い わら

ひとつのじとばで な 泣かされる

ひとつのじとばは それぞれに

ひとつの こころ 心をもっている

きれいなじとばはきれいな心 こころ

やさしいじとばはやさしい心 こころ

ひとつのじとばを大切に たいせつ

ひとつのじとばを美しく うつく

*この詩を書いた北原白秋さんは、

日本の代表的な詩人の一人です。

八王子市歌の歌詞の作者でもあります。



*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだいぐ◇ 四枚め①

アンパンマンのマーチ

やなせ たかし

そうだ うれしいんだ いきるよろこび
たとえ むねのきずが いたんでも

なんのために うまれて
なにをして いきるのか

こたえられないなんて そんなのはいやだ

いまを いきることで あついにいつか もえる
だから きみはいくんだ ほほんえんで

そうだ うれしいんだ いきるよろこび
たとえむねのきずがいたんでも。

◇おんどくだい◇

四枚め②

はる
春のうた

くさのしんぺい
草野心平

ほっ まぶしいな。
ほっ うれしいな。

みずは つるつる。
かぜは そよそよ。
ケルルン クック。
ああいにおいだ。
ケルルン クック。

ほっ いぬのふぐりがさいてる。
ほっ おおきなくもがういてる。

ケルルン クック。
ケルルン クック。

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだいく◇ 四枚め③

手のひらを太陽に^{たいよう}

やなせ たかし

ぼくらはみんな 生きて^いいる

生きて^いいるから 歌^{うた}うんだ

ぼくらはみんな 生きて^いいる

生きて^いいるから かなしいんだ

て 手のひらを太陽に^{たいよう} すかしてみれば

まっかに流^{なが}れる ぼくのちしお

ミミズだって オケラだって

アメンボだって

みんな みんな生きて^いいるんだ

とも 友だちなんだ



*おんどく 10回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 五枚め①

教室はまちがうところだ

まきたしんじ
蒔田晋治 (部分)

まちがいだらけの ぼくらの教室

おそれちゃいけない わらっちゃいけない

安心して 手をあげろ

安心して まちがえや

まちがったって わらったり

ばかにしたり おこったり

そんなものは おりゃあせん

まちがったって だれかがよ

なおしてくれるし 教えてくれる

困ったときには 先生が

ないチエしぼって 教えるで

そんな教室 つくろつやあ



*この詩は長いので、次のページに続きます。

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 五枚め②

教室はまちがうところだ

まきたしんじ つづき
蒔田晋治(続き)

おまえへんだと 言われたって
あんたちがうと 言われたって
そう思う だからしょうがない

だれかがかりにも わらったら
まちがうことが なぜわるい

まちがってること わかればよ
人が言おうが 言うまいが

おらあ自分で あらためる
わからなけりゃあ そのかわり

だれが言おうと いじいじと
おらあ根性 まげねえだ
そんな教室 つくろつやあ

*この詩は長いので、前半と後半に分けて覚えてもかまいません。

*「教室はまちがうところだ」の絵本が図書館にありません。

ぜひ全文を読んでも、ぜひ覚えていただろう。

*おんどく 10回(きいてもらったら正の字をなぞる→正・正) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 五枚め③

あめ
雨ニモ マケズ
みやさわ けんじ
宮沢 賢治

*元の文章は、題名の様にカタカナまじりで書かれています。

（ここでは読みやすさを考えて、漢字とひらがななどで表記しました。）

雨にも負けず 風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ 丈夫な身体をもち
欲はなく 決していからず いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と 味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを 自分をかんじようにいれずに
よく見聞きし わかり そして忘れず
野原の松の林のかげの 小さなかやぶきの小屋にいて
東に病氣の子どもあれば 行って看病してやり
西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を負い
南に死にそんな人あれば
行って怖がらなくてもいいと言いつ
北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろと言いつ
日照りの時は涙を流し 寒さの夏はおろおろ歩き
みんなに でくの坊と呼ばれ
ほめられもせず 苦にもされず
そういうものに わたしはなりたい

◇おんどくだい◇ 六枚め①

のはらでむきたい

くぼた
久保田

しょうぎゅう
昭三

おにわへ うつすの

こまりますです

はちに うえるのも
いけませんです

あなたのほうから
あなたのほうから

こちらに はなみに
おいでなさいな

のはらでむきたい
くさのはなです



*おんどく 10回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 六枚め②

じゅげむ らくごから

じゅげむ じゅげむ いじいのすらわれ
かいじゃすいぎよの すいぎようまつ
うんらいまつ ふうらいまつ
くうねるところに すむやにう
やぶらじうじの ぶらじうじ
パイポパイポ
パイポのシューリング
シューリングのグーリング
グーリングのポンポピーの
ポンポナーの
ちようきゅうめいのちようすけ

らくご 落語「寿限無」から。ひとり なまえこれで、一人の名前なのです。
なが なまえすいぶん長い名前ですね。

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくぐたいく◇ 六枚め③

なんとかなるー！ いのししづんだ

ぼくのもくひょうは いつも
「まっすべはしる」なのである

でっかいやまにぶーんー！ でも
やっぱり「まっすべはしる」
なのだ

いくぞー！

おまじないは「なんとかなる」



なんとかなるかな なんとかしたいぞ
なんとかしよう なんとかするのさ
なんとかトカトカ はしってらや
ほらーらん なんとかなったー！

*おんどく 10回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだいぐ◇ 七枚め①

そつだ村の村長さん むら さんちよう 阪田 寛夫 さかた ひろお

そつだむらの さんちようさんが
ソーダのんで しんだそつだと
みんながいうのは ウッソーだって
さんちようさんが のんだソーダは
クリームソーダの ソーダだそつだ
おかわり 十かいしたそつだ
うみのいろした クリームソーダ
なかでおよげば なおうまそつだ
クリームソーダの プールはどうだと
みんなとそつだん はじめたそつだ
そつだむらでは おおそつどう
プールはつめたい ぶっそつだ
ふろにかぎると きまったそつだ
そつだよ たんさんクリームおんせん
あったかそつだ あまそつだ
おとなも こどもも くうそつだけで
とろけるゆめみて ねたそつだ



*おんどく 10回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 七枚め②

つけたし言葉 ことば 言い伝え い づた から

おどろき ももの木 き さんしよの木 き

あたりき しやうき 車力よ 車引き くるまひ

ありが鯛 たい なら 芋虫 いもむし や クジラ くじら

うそを つきじ 築地 つきじ の ご門跡 もんぜき

おそれ入谷 いりや の 鬼子母神 きしぼじん

おっと がってん 合点 しょうち 承知 すけ の 助

その手 て は 桑名 くわな の 焼き蛤 やきはまぐり

何か なに 用 よう か 九日 ここのか 十日 とおか

何が なに 南京 なんきん 唐茄子 とうなす かぼちゃ

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくぐだいぐ◇ 七枚め③

なががわ りえこ

くじらぐも 中川 李枝子

☆この音読は、二人以上でとりぐみます。

どのやくわりでも、できるようになりましよう。

①の人 ひと みんなは、手をつないで、

まるいわになるよ、

②の人 ひと みんなで「天までとどけ、一、二、三。」

①の人 ひと と、ジャンプしました。

でも、とんだのは、

やっと三十センチぐらいです。

②の人 「もっとたかく、もっとたかく。」

と、くじらがおうえんしました。

③の人 みんなで「天までとどけ、一、二、三。」

①の人 こんどは、五十センチぐらいとべました。

②の人 「もっとたかく、もっとたかく。」

③の人 と、くじらがおうえんしました。

④の人 みんなで「天までとどけ、一、二、三。」

◇おんどくだい◇ 八枚め①

方丈記 ほうじょうき

鴨長明 かももちょうめい

(部分) ぶぶん

行く川のながれは絶えずして、
ゆくかわ た

しかも 元の水にあらず。
もと みず

よどみに浮ぶ、うたかたは、
うか

かつ消え かつ結びて
き むす

久しくとどまることなし。
ひさ

*「うたかた」は、水につかぶあわのちり、はかなきものいじです。

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 八枚め②

椰子の実 やし み 島崎 しまざき 藤村 とうそん

名も知らぬ な し 遠き島より とお しま
流れ寄る なが よ 椰子の実一つ やし みひと
故郷の岸を ふるさと きし 離れて はな
汝はそも なれ 波に幾月 なみ いくつき

旧の木は もと き 生いや茂れる お しげ
枝はなお えだ 影をやなせる かげ
われもまた ひとりみ 渚を枕 うきね たび
孤身の ひとりみ 浮寝の旅ぞ うきね



実をとりて み 胸にあつれば むね
新なり あらた 流離の憂 りゆうり うれい
海の日 うみ ひ 沈むを見れば しず み
激り落つ たぎ お 異郷の涙 いきよう なみだ
思いやる おも 八重の汐々 やえ しおじお
いずれの日にか ひ 故国に帰らん くに かえ

◇おんどくだいく◇ 八枚め③

春望 しゅんぼう
杜甫 とほ

国破れて山河あり くによび さんが

城春にして草木深し しろはる そうもくふか

時に感じては花にも涙をそそぎ とき かな はな なみだ

別れを恨んでは鳥にも心を動かす わか うら とり こころ うご

烽火三月に連なり ほうかさんがつ つら

家書万金にあたる かしょばんきん

白頭かけばさらに短く はくとう みじか

すべて簪にたえざらんと欲す しん ほつ

*杜甫さんは、千年以上昔の とほ せんねんいじょうむかし

中国の詩人です。 ちゅうごくのしじん

【この詩のたいいの意味】

国の都はこわされてしまったけれど山も川も昔のままだ。春が来て、草木も木も青々としげっている。

あれはた世の中の様子を見てみると、美しい花を見てもなみだがででくる。

家族と別れてしまったので、鳥の声をきいても心がいたむ。

のろしの火は、まだきえない。家族からの手紙は、大金にも代えることはできない。

私のしらが頭からは、かみの毛はぬけてしまい、かんざしをさすこともできない。

*おんどく 10回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだいく◇ 九枚め①

いちねんせいコール

みんな　じゅんび　オツケー？

オツケー！

せーの。

ともだち　ともだち　いいな　ともだち。

みんなで　やるぞー！

なんでも　やるぞー！

なんでも　やったら　いいきもち。

とおい　そらみて

やっほー。

ちからをあわせて

エイ　エイ　オー

*この詩は、教科書きょうかしょのった詩しをもとに、いろいろな先生せんせいや子どもたちが書きへわえて、できあがったものです。

読む人よむひとにあわせて、何年生なんねんせいコールになってもかまいません。

◇おんどくだい◇

九枚め②

七字のうた

坂村 さかむら

眞民 しんみん

よわねをはくな
くよくよするな
なきごというな
うしろをむくな

ひとつをねがい
ひとつをしとげ
はなをさかせよ
よいみをむすべ

すずめはすずめ
やなぎはやなぎ
まつにまつかぜ
ばらにばらのか

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

◇おんどくだい◇ 九枚め③

生きる い 谷川俊太郎 たにかわしゅんたろう (部分) ぶぶん

生きていいるということ

いま生きていいるということ

それはのどがかわくということ

木こもれ陽ひがまぶしいということ

ふっと或あるメロディを思おもい出だすということ

くしゃみするにいうこと

あなたと手てをつなぐにいうこと

生きていいるということ

いま生きていいるということ

鳥とりははばくということ

海うみはとびろくということ

かたつむりは はくということ

人は愛あいするということ

あなたの手てのぬくみ

いのちということ

*「生きる」は、長い詩です。ぜひ全文を讀んでみてくだい。

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→正・正) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)

八王子市立第九小学校 校歌

巽聖歌 作詞

信時潔 作曲

一 かぜかおる みどりのけやき

たか たま そら

いや高き多摩のこの空

われらいまここにうまれて

ここに育つ

はちおうじしりつだいくしょうがっこう

八王子市立第九小学校

二 みずきよく ゆたけき岸^{きし}べ

とおつよも かくぞ栄^{さか}えし

われらいまここに育^{そだ}ちて

ここにまなぶ

はちおうじしりつだいくしょうがっこう

八王子市立第九小学校

三 くもひかる むさしの野^の面^{めん}

はたをおる 音^{おと}もさやけし

われらいまここにまなびて

ここにはげむ

はちおうじしりつだいくしょうがっこう

八王子市立第九小学校

*おんどく 10 回(きいてもらったら正の字をなぞる→**正・正**) *暗唱を聞いた人のサイン(この下に)